K-9　東松島市宮戸月浜地区　　2012 年 2 月 17 日（金）

報告者名　俵木　悟　　被調査者生年　1945 年（男）
調査者名　俵木　悟　　被調査者属性　えんずのわり参加の子どもの祖父、民宿業
補助調査者　大沼　知

今年のえんずのわり行事について、親族としての苦労など

少子化が進んで、すでに去年からこの３人（今年の行事に参加した小５～小３の３人）でやることは分かっていたので、家族・親族として当初は心配していた。話者の孫のＡ氏は小学２年生から参加しているが、年ごとに成長の様子が見えたので、仲間で協力してやればなんとかなるのではと思うようになった。子どもたちは嫌だとは言わず、やるんだという気持ちが強かったようだ。楽しいということもあるし、伝統を守るという意識もあったのではないか。

行事の前に神社の周りを掃除したくらいで、小学生だけだからといって特別な世話などはしなかった。なるべく大人は手を出さないという意識もあった。部落としても、神社の鳥居を新調したりはしたが、とくに何か手伝ってほしいという声かけもなかった。

震災の影響ということでは、浜に家がなくなってしまったので、多少は心配して見に行くことはあった。ボラ（岩屋）で使う水が、震災前は千鳥荘（岩屋に一番近い民宿）の海苔乾燥庫からもらっていたが、震災で水道がなくなり、井戸も使えなくなったので、大人がテンタルに水を汲んで運んであげた。

米を炊くのは、少人数分だし、そのわりに大きな釜を使っていたのでたいへんだと思っていたが、今年はとても上手にご飯が炊けていた。

たいへんだったのは参加した子どもの母親たちで、談話室に寝ている子どもを早朝３時に起こしに行っていた。起こした後も、心配もあって、手は貸さないまでもしばらく子どもたちの様子を見ていたようだ。小学生３人だけで、上級生がいなかったのも心配の理由の一つかもしれない。朝の食事をすませて自宅に帰ってくると、少し休ませてから学校まで送っていた。他にえんずのわりに参加した子ども２人は兄弟で、宮戸小学校の仮設住宅に入っているので、話者の孫だけが、朝の行事の後、自宅から学校に通った。ふだんから３人は仲が良く、Ａ氏は、小学校の仮設に入っている兄弟と遊ぶために、一度自宅に帰ってきてから、再度小学校まで出かけていくこともしばしばだという。

自分が参加したえんずのわりと、現在のえんずのわりの相違

一番の違いは、風呂がなくなったことと、神社の前の井戸を使わなくなったこと。

井戸はオイドと呼ばれ、部落の中心でもあり、清い水であるとされ、部落中で大切にしていた。自分が子どもの頃は井戸にポンプなども無く、バケツにロープをくくりつけて汲み上げていた。バケツに水を上手く汲むのは難しかった。風呂はボラの中に五右衛門風呂の釜があって、そこに

井戸から汲んできた水を入れていた。朝３時頃に風呂に水を入れるのだが、井戸の縁が凍っていてとても寒かった。

ボラには年長の者から４～５人が泊まり、それ以外は家に帰って寝ていた。他の子どもは３時頃に起きて、ボラに寝ている者を起こしに行った。そのために、子どもの母親も３時頃に起きなければならなかった。

昔は肝試しもあった。明るいうちに特定の場所に目印になるようなものを置いておいて、暗くなってから、それを取ってこいと命じられる。所々に人が隠れていたりして驚かしていた。

子どもに辛いことがあったときには、よく「えんずのわりはもっと辛いよ」などと言われたものだ。また先輩が怖かったという思い出はある。同じ学年でも、生まれが早いものが上位になる。ただしえんずのわりが終われば、同学年の中での序列関係は意識しなかった。

かつて、えんずのわりのときにやっていたという嫁のスミツケについては、話は聞いたが自分が子どもの頃はすでにやっていなかった。自分が青年部にいたとき（40 歳くらいの頃と記憶している）、公民館でカラオケ歌祭りというのを２～３年やったが、その中で若妻会と一緒にスミツケの再現劇をやったことがある。そのビデオを撮って持っていたが、津波で流されてしまった。

お籠もりの最後の日にカレーを食べても良いというのは、自分は知らなかった。自分が子どもの頃は、今の学校がある近くに豆腐を作っていた家があって、そこに豆を持っていって、豆腐や油揚げにして持ってきてもらった記憶がある。味噌汁に入れたり、働きが良かった褒美にもらえる三段豆腐になった。

これからのえんずのわりについて

現在の３人でしばらくは続けられるが、次の子どもが入ってくるのは、予定では再来年。それも親の考えなどで、必ずしも小学１年生から参加するわけではない。話者の孫も１年生のときにはかわいそうだと思って２年生から参加させた。それでも月浜に生まれた男なら必ず通る道である。親世代も、やってほしいし、やらせたいと思っているはず。今年から参加資格は高校３年生までになったが、現実には高校生になると参加は難しい（今年も仙台の高校に通っていて来られなかった者が１人いた）。

昨日の新聞（2 月 16 日付河北新報）に、平成 28 年に小中学校が統合するという話が出ていたが、そうなるとバス通学になり、中学生でも参加に支障が出るかもしれない。

現状では、今年一番大将だったＢ氏を中心に続くのでうまくやれると思う。話者の孫のＡ氏も１年だけは大将を務めることになるが、その時までには成長して大丈夫だろうと思っている。

えんずのわりと女性の役割（C 氏の回答）

自分は娘ばかり３人だったので、孫が参加するのが初めての経験でとても嬉しかった。しかし祖母として何か特別なことはしていない。椿会など地区の夫人の集まりでも、とくに何かするという話は聞かなかった。ボラは女人禁制だということもなんとなく知っている。

自分のところでは、お籠もりに入る何日か前から、自宅でジャガイモの皮のむき方などを練習したが、自分が関わったのはそれくらいである。

その他

昔は神社の祭りのときに、青年団（後に漁協青年部）が中心になって演芸会をやった。神社の境内の西側に木を組んで舞台を作り、下にドラム缶や臼のようなものを入れて、その舞台で自分たちで練習した踊りをやった。